

第3学年 英語科学習指導案

日 時 令和4年11月8日(火) 6校時
会 場 2階国際交流教室
学 級 3年1組 男子16名女子13名計29名
授業者 教諭 加藤敬士
ALT アシュリー・ヌエン

1 単元名 Here We Go! 3 (光村図書) Unit6 The Chorus Contest

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(3) 話すこと [やり取り] イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」を中心に、複数領域にまたがる統合的な言語活動を進めていくことができる単元である。教科書題材として、日本の合唱コンクールが取り上げられている。生徒は文化祭を経験した上で、海外から見た日本の文化祭という視点に触れることができるので、自国の文化に対する理解をいっそう深めることができる。また、文化祭という視点から、アメリカと日本の学校の違いという視点まで幅を広げ、やりとりを通して自らの考えを深化・再構築することを繰り返し、今後の学校の在り方としての理想を語り合う場としたい。言語材料としては、主に後置修飾を含む文を学習するので、日本の学校文化を説明する中で定着を図りたい。豊かな題材を通して「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあう」言語活動を展開したい。

(2) 生徒観

生徒は、普段から学校での日常生活や行事等に前向きに取り組んでいる。先月行われた文化祭では、自分たちで創り上げるという当事者意識をもって、生徒は活動に取り組んだ。その経験を活かし、今回の単元では、海外(アメリカ)の学校生活と自校を対比させることで、自分たちで創り上げた文化祭への理解を一層深め、表層的な情報で終結せず、自分の学校に対する更なる当事者意識を高めるための思考の深まりを期待する。また、プレゼンテーション活動を通して考えを相手に伝える在り方について考えさせたい。

(3) 指導観

① 研究との関わり

本校では、研究主題を「学び合いの中で自分の考えを表現できる生徒の育成」と設定し、この研究目標を達成するための手段として、ICTを活用することとした。

本単元のまとめの活動は「多様な価値観に触れ、理想的な学校の在り方についてペアで意見を述べ合う」ことであるため、本単元では特に、次の二つの手立てから資質・能力の育成を目指す。

手立て1 研究の視点(1) 主体的・対話的で深い学び

単元のゴールを生徒と事前に共有することで、生徒は学びたい内容を自ら考えるようになる。

- ① 学びに対して好奇心や探求心をもちながら自己決定をし、解決すること(主体的な学び)
- ② 他者とのやり取りを通して得た情報を比較、関連付けて自分なりに再構築すること(対話的な学び)
- ③ 教師が生徒のやり取りの内容や様子を観察し、次時以降の話題の方向性について判断を加えながら、徐々に内容面と言語面の高度化、深化を図ること(深い学び)が資質・能力を育成するものとする。

手立て2 研究の視点(2) ICTの効果的な活用

本校におけるICTの効果的な手段は、生徒が自分の考えを表現するためのツールとして活用し、意見の交流を通して深い学びにつなげていくことである。今回は、パワーポイントを活用しプレゼンテーション練習をする中で、自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶことができ、グループ活動では他者の意見

を関連付けながら自分なりの考えをまとめ、さらに発展的な学習に取り組むことができる。また、映像を活用することで、手本となるモデルを共有し、生徒同士の学びを接続することができる。

3 単元の目標

友達や先生方の意見等を踏まえた自分の考えをまとめるために、日本とアメリカの学校文化の違いについて、多様な価値観に触れながら今後の学校の在り方について自分の考えとその理由を簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 後置修飾や間接疑問文の特徴や決まりを理解している。 【技能】 文化の違いについてプレゼンを通じて、自分の考えとその理由を伝え合う技能を身につけている。	理想的な学校の在り方について自分の考えをプレゼンで相手に発信するために、簡単な語句を用いて正確に伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	理想的な学校の在り方についてプレゼンを通じて伝えるために、簡単な語句を用いて正確に伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。 相手の考えに対して、批判的な質問をすることで相手の考えを深めようとしている。

5 単元の指導計画（12時間）

時	◎ねらい ・関連領域 □聞くこと R読むこと S話すこと【やりとり】W書くこと	【観点別評価】 ・備考
1	Q: What's the difference between American public school and Japanese public school? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ・行事 ・部活動 ・授業 ・朝の会、帰りの会 ・通学 ・給食 ・決まり事 </div> ◎単元計画を知り、学びの見通しをもち学習計画を立てる。 ・単元のパフォーマンス課題に対するルーブリックを作成する。	・目指すべき姿を具体的に想起する。 ・学習計画を公開することで、生徒も自らの学びを自律的に考える。 ・毎時間振り返りは行うが、記録に残す評価は行わない。言語活動の中での中間指導は適宜に行い、単元末でのパフォーマンステストで評価する。
2 ～ 4	Q: What do you think of the Japanese chorus contest? □ R S ◎問いをもちながら教科書題材に触れ、新出の言語材料等を理解する。 ①題材の場面・状況を把握する。 ②新出の言語材料（後置修飾）（間接疑問文）の形、意味、使い方理解して慣れる。 ◎問いを持ちながら教科書題材を読み、自分の考えを持つ。 ①題材の概要を把握する。（パラグラフリーディング） ②調べたり教え合ったりして、必要な情報について理解を深める。 ◎問いに対して、ALT や友達の意見を参考に、自分の考えを再構築する。 ① グループ分けアンケート	・各時間のやり取りの中で、適宜補助発問を行う。 【発問例】 -If you were Hajin, what would you do? -How was the chorus competition? What did you learn from that? [Let's ask her about the chorus.]

<p>5 ～ 7</p>	<p>◎発表準備① □□□ ①プレゼン活動についての目標を全体で共有 ②単元前半を通して学んだことや、単元後半の見通し、目標等の修正などを単元シートに記入する。 ③ALT へのインタビュー内容を考える</p> <p>◎発表準備② ①ALT へのインタビュー実施 【日本の学校で過ごして驚いたことその理由について】 ②発表原稿とスライドの作成</p> <p>◎発表準備③ ①発表原稿とスライドの作成 ②発表練習 ③問いに対して、ペアでやり取りを繰り返す。そしてルーブリックを用いて相互評価を行い、必要感に沿った準備を行う。</p>	<p>・生徒と教師がやり取りをしながらルーブリックを検証、修正、改善していく。</p> <p>・ALT とのインタビュー内容を必要に応じて、全体共有する。</p> <p>・生徒の中からやり取りのモデルを提示し、全体で内容面と言語面の表現の共有を行う。</p>
<p>8 本 時 ～ 1 0</p>	<p>◎発表練習④【中間報告会】 □□ ①グループ内で Gesture、Voice inflection、Q&A 練習 ②JTE に発表する</p> <p>◎発表練習⑤ ①前時の評価やフィードバックをもとに、発表原稿とスライド手直し及び発表練習</p> <p>◎発表【評価】 各グループ質疑応答含めて4分【生徒と教師のやり取り】</p>	<p>・本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p> <p>学校文化の違いや自分の考えを相手に簡単な語句を用いて正確に伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。【思・主】</p>
<p>1 1 1 2</p>	<p>◎一斉全体発表 各グループ質疑応答含めて4分【生徒と生徒のやり取り】</p> <p>◎単元の学びを振り返る プレゼンの動画を視聴し、単元前後の変容や伸びを自ら自覚し、次の単元の学びに繋げる</p>	<p>問答を繰り返す中で、自らの学校に対する当事者意識や思考が深まっている。【主】</p>

6 本時の指導

(1) 目標

プレゼンテーション本番に向けて、発表や問答練習に主体的に取り組み、自らの考えを深めている。

(2) 授業構想

本時は、プレゼンテーション発表本番に向けての中間発表会の時間とし、グループ内や先生と生徒のやり取りを通じて、問いに対する自分の考えに磨きをかけて再構築するための1時間である。

導入では、プレゼンテーションに関わる類似した問いに対して口頭練習を行い、良いやり取りの視点（ルーブリック）を想起させる。展開では、グループごとに発表や問答練習を行い、お互いの発表力を向上させていく。また、先生方にプレゼンを発表し、アドバイスを聞くことで、自分の考えを整理・構築させていく。また、必要に応じて個別の支援や全体共有を挟むことで、やり取りの質を向上させていきたい。ルーブリックを用いながら個人の目標を定めさせ、意欲をもってやり取りに臨ませたい。終結では、内容面と言語面をどのようにブラッシュアップしたか、しようとしているかについて

共有し、振り返ったうえで次時に繋ぎたい。

(3) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動 ・予想される生徒の反応等	○指導上の留意点
導入 5分	1 ウォームアップ (5分) Q & A What school difference between America and Japan are you interested in? 2 学習課題の把握 (5分) Today' s goal Refine your ideas	○ALTとの対話から生徒との対話に移行し、生徒同士のQ&Aにつなげていく。
展開 35分	3 中間発表・グループ活動 (25分) ・中間発表 (先生方へプレゼンをし、その後修正を行う) ・グループ内で発表とやり取り練習 (ルーブリックを用いて相互評価を行う) *必要に応じて全体共有をする やり取り (例) After the presentation.. T: I have a question for you. Why do you think American school lunch is better than Japanese school lunch? S: <u>Because you can talk more freely if you eat lunch in the cafeteria.</u> T: You have an interesting opinion. Tell me more. S: <u>Students can talk freely with teachers and learn more.</u> T: That' s great. I think your presentation was great. S: <u>Thanks.</u> ・活動終了後、Q&A全体共有 (数組)	○グループごとの中間発表から、必要な視点を把握し、適宜全体で共有する
終末 5分	4 本時の振り返り (5分) 課題解決の度合いを振り返り、目標等の修正などを単元シートに記入する	■板書を活用して振り返りをさせる。